

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 5 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25380372

研究課題名(和文) 時間配分と健康状態の経済分析

研究課題名(英文) Economic analysis of time allocation and health condition

研究代表者

黒田 祥子 (Kuroda, Sachiko)

早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授

研究者番号：50447588

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、主に3つの視点から研究を実施した。第一は、日本人の労働時間の長さの規定要因を複数の角度から掘り下げる研究である。第二は、高齢化の進展に伴い、家族の介護を抱える中間の年齢層が増加する中、こうした年齢層がどの程度介護と就労とのコンフリクトに直面しているかを検証する研究である。第三は、上記の2つの視点の結果を発展させ、働き方とこころの健康(メンタルヘルス)との関係を探った研究である。本研究からは、働き方や労働時間、休日における介護等の付随する労働が人々の健康に多大な影響を及ぼしていることが示唆されるエビデンスを数多く示すこととなった。

研究成果の概要(英文)：In this project, I have mainly conducted the following three research. First theme is to identify the major determinants of long work hours of Japanese workers. Second theme is to look into the time allocation of middle-aged workers who face work-life-conflict. Since Japan is facing super-aged society, the number of workers who need to take care of their elderly parents while keeping his/her full-time job is rapidly growing. I found that time for elderly care is mainly concentrated during weekends because many workers become to work longer hours than before during weekdays. Third theme is the relationship between work and workers' mental health. Using workers' longitudinal data, I found that long work hours is one of the major factors that harms workers' mental health. Using firms' longitudinal data, I also found that firms with workers with bad mental health condition also suffers from lower profit rate.

研究分野：労働経済学

キーワード：労働時間 メンタルヘルス 時間配分 ワークライフバランス 長時間労働

1. 研究開始当初の背景

2000年代に入ってからわが国では、長時間労働者比率や過労死の増加、また過労との関係性が深いとされる精神疾患患者の増加などが社会問題化している。本研究の研究代表者(黒田祥子)は、こうした問題を受け、過去に2つの研究資金を得て、日本人の労働時間に焦点を充てた研究を行ってきた。平成19~21年度の研究プロジェクトでは、時間配分に関する精緻な政府統計の個票データ(『社会生活基本調査』)を用い、記憶違いや認識違いといった統計誤差により計測が困難と考えられてきた労働時間を実測する等、現代の日本人労働者の実態把握に重点を置いた研究を行った。分析からは、わが国ではこの数十年間で平日の労働時間の長時間化や睡眠時間の趨勢的な減少が起こっている実態が明らかになった。これらのファクトファインディングを受け、続く平成22~24年度の研究プロジェクトでは、長時間労働の規定要因を特定化すべく、時間外規制の撤廃(ホワイトカラー・エグゼンプションの導入)が労働時間に及ぼす影響、労働者の時間選好に関する国際比較、不況時に時間調整により雇用保護を行うことを目的に、企業主導で平時の残業時間を長めにさせておく「残業時間の糊代説」の検証、就業の深夜化や正社員の長時間労働と非正規の深夜労働との関係の検証等、日本人の長時間労働の規定要因を多角的に検証した。

日本人の働き方の実態把握と長時間労働の規定要因の特定化を中心としたこれまでの研究を進展させ、本研究は次のステップとして、労働時間および、睡眠時間をはじめとする労働時間以外の時間配分の規定要因を検証するとともに、そうした時間配分と健康状態との関係、より具体的には、長時間労働や睡眠時間の減少と心身の健康状態との間の系統的な関係の把握や、従業員の健康問題が企業の生産性に与える影響等を明らかにすることを目指して開始したものである。

2. 研究の目的

本研究は、上述で示したように、これまでの労働時間に関連する一連の研究をさらに進展させ、人々が労働時間や睡眠時間等の時間配分をどのように行い、そうした時間配分(長時間労働や睡眠時間の減少等)が心身の健康に与える影響や、従業員の健康問題が企業の生産性低下に与える影響等を明らかにすることを目的としたものである。最終的な目標は、この研究を通じ、少子高齢化による労働力人口の減少が既に始まっているわが国において、多くの人が健康に働ける社会と持続可能な成長が実現するための望ましい施策について含意を導出することにある。

3. 研究の方法

初年度(平成25年度)は、睡眠時間や時間配分に関する経済学およびそれ以外の分

野の先行研究の整理、日本人の健康状態を把握するための公式統計の利用や、厚生・労働統計の利用申請などを行い、自身の研究の位置づけを明確化させながら、データセットの作成とプログラムを構築した。また、メンタルヘルスという公式統計では入手できない情報を入手するために、同一個人や同日個人をマッチングさせながら追跡調査するマッチデータを構築、数年分のデータを蓄積させ、分析に用いた。2年目以降は、解析を続行するとともに、論文(初稿含む)を執筆し、国内外の学会やワークショップで研究発表を行い、学会等での報告を通じて得たコメントを集約し、論文を完成させた。

4. 研究成果

本研究では、主に3つの視点から研究を実施した。

第一は、日本人の労働時間の長さの規定要因を複数の角度から掘り下げる研究である。この研究では、まず、日本・イギリス・ドイツの労働者を対象にしたアンケート調査をもとに、3か国の労働者の余暇に対する選好に違いがあるかを検証した。分析の結果、3か国を比べると、実労働時間だけでなく希望労働時間も日本人のほうが英国人やドイツ人よりも統計的にみて有意に長いことが分かった。しかし、日本人は、長時間労働が評価されるような職場や企業で働く労働者ほど、実労働時間だけでなく希望労働時間も長くなっていることが分かった。次に、ワークライフバランス施策の導入には企業側にコストがかかるため、補償賃金仮説の考え方をこれらの施策にも援用し、そうした施策を導入する代わりに労働者がどの程度賃下げを許容する余地があるのか、また企業側はどの程度賃下げをすれば施策を導入しても良いと考えるのかを企業とその企業で働く労働者の双方に仮想質問を行うことにより、企業=労働者のマッチデータを作成し、ワークライフバランス施策の賃金プレミアムを検証した。日本で、ワークライフバランス施策が普及しない背景には、従業員側は施策を導入したとしても賃下げは行うべきではないと考えている人が多いのに対して、企業側は施策の導入を多大なコストと捉えているという、認識の大きなずれが関係していることが明らかになった。また、日本で長時間労働をしている労働者が、短時間労働が一般的な欧州諸国に転勤した場合、他の条件を一定として、労働時間の減少はみられるのかを独自のアンケート調査を実施し、分析を行った。その結果、赴任前後の景気動向の違いや仕事量、職場のマネジメントの違いのほか、分析者には観察不可能な個人属性や、国ごとの法規制の違いなどを考慮したうえでも、欧州に赴任した日本人の労働時間は、現地の同僚の働き方の影響を受け、統計的にみて有意に減少していたことが明らかになった。この結果は、労働者の労働時間の長さは、職場の雰囲気や

同僚の働き方に大きな影響を受けて変化するピア効果（同僚効果）があることを確認したものである。

続く2つ目の視点は、高齢化の進展に伴い、家族の介護を抱える中間の年齢層（30-50歳台）が増加する中、こうした年齢層がどの程度介護と就労とのコンフリクトに直面しているかを検証した。分析の結果、就労しながら介護に携わる中間の年齢層の割合は2000年代以降に急速に増加傾向にあること、しかしこれらの人々の平日の労働時間はむしろ増加しており、平日の介護時間は減少傾向にあること、そして介護は休日に集中して行われていることなどが明らかになった。介護と就労を両立させる労働者が今後も増加していくと予想される中で、週末における介護の集中など、休日の過ごし方が労働者の心身の健康にどのような影響を及ぼすかについて検証することが重要であることが示された。

第3の視点は、上記の2つの視点の結果を発展させた、働き方とこころの健康（メンタルヘルス）との関係を探った研究である。まず、同一個人のメンタルヘルスの状態と働き方に関する情報を4年間追跡調査したパネルデータを構築し、メンタルのタフさの違いといった個々人の異質性を取り除いたうえでも働き方が心の健康に影響を及ぼしているかを検証した。検証の結果、時間を通じて不変・可変の原因を除去し、逆の因果性を取り除いたうえでも、労働時間が長くなると労働者のメンタルヘルスが悪化する傾向にあることが明らかになった。また、メンタルヘルスを毀損させる要因としては、労働時間以外に仕事内容の明確化や仕事の手順に関する裁量性の有無など、働き方にも大きく規定されることが明らかになった。続いて、同じデータセットを用いて、労働者はメンタルヘルスを毀損するリスクを認識していながらなぜ長時間労働をしてしまうのかを、行動経済学の知見を取り入れながら検証した。分析の結果、長時間労働はメンタルヘルスを悪化させるものの、労働時間が長くなるほど仕事満足度が増すことから、自分の健康を過信してしまう人ほど長時間労働になりやすいことを示した。さらに、約400の企業を経年的に追跡調査し、従業員のメンタルヘルスに関する情報と財務データをリンクさせ、従業員のメンタルヘルスの度合いが悪化すると企業業績が統計的にみて有意に悪くなることを明らかにした。

なお、わが国で精神疾患患者数が急増したのは2000年代以降であるが、この時期はまた、景気後退が一層深刻化したにもかかわらず、長時間労働者が急増した時期にも相当する。そこで、この不況期に長時間労働が増加した要因を探るために、政府統計の個票データや独自に行った回顧調査を元に、当時長時間労働が増加した背景を分析をした。検証の結果、採用抑制や人員整理等のリストラを実施した職場で働く労働者や、パートタイマー

比率が増加した職場で働く労働者ほど、長時間労働をする傾向が強くなっていったことが明らかになった。こうした背景には、産業構造が変化し、景気後退期でも業務量が減らないようなホワイトカラーの職種が増えている中で、業務量が減少していないにもかかわらずリストラが実施された職場ほど、そこで残された社員に仕事がしわ寄せされていた可能性や、教育訓練を十分に実施しないまま非正規雇用が増加する中で、そうした労働者を管理する正社員の業務量が増し、長時間労働者が急増していたことなどが明らかになった。

本研究からは、働き方や労働時間、休日における介護等の付随する労働が人々の健康に多大な影響を及ぼしていることが示唆されるエビデンスを数多く示すこととなった。本研究で得られた知見は、以下に示すとおり、査読を経て国内外の学術雑誌に複数の論文として掲載されたほか、研究成果を広く国民に還元することを目的として、1冊の本にまとめ出版した（『労働時間の経済分析 超高齢社会の働き方を展望する』、日本経済新聞出版社、2014年、全359頁）、本書は、第57回日経・経済図書文化賞受賞および第38回労働関係図書優秀賞受賞を受賞するなど、高い評価を得た。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 12件）

Kuroda, Sachiko, “Work-Life Conflict in the Intermediate Age Bracket: Trends in Working Hours and Time Spent Caring for Elderly Family Members,” *Japan Labor Review*, 13(1), 2016, pp.55-72, http://www.jil.go.jp/english/JLR/documents/2016/JLR49_kuroda.pdf

Genda Yuji, Sachiko Kuroda and Souichi Ohta, “Does Downsizing Take a Toll on Retained Staff? An Analysis of Increased Working Hours in the Early 2000s in Japan,” *Journal of the Japanese and International Economies*, 36, 2015, pp.1-24, doi:10.1016/j.jjie.2013.06.005

Kuroda, Sachiko, “Leisure,” *Japan Labor Review*, The Japan Institute for Labor Policy and Training, 2013, 10(4), pp.16-23, http://www.jil.go.jp/english/JLR/documents/2013/JLR40_kuroda.pdf

Kuroda, Sachiko and Isamu Yamamoto, “Firm's demand for work hours: Evidence from multi-country and matched firm-worker data,” *Journal of the Japanese and International Economies*, 29(3), 2013, pp.57-73, doi:10.1016/j.jjie.2013.06.005

Kuroda, Sachiko and Isamu Yamamoto, “Do

peers affect determination of work hours? Evidence based on unique employee data from global Japanese firms in Europe,” *Journal of Labor Research*, 34(3), 2013, pp.359-388, doi:10.1016/j.jjie.2013.06.005

黒田祥子、「日本人の働き方と限定正社員」、『季刊労働法』No.248、春号、労働開発研究会、2015年、52-63頁

黒田祥子、「中間の年齢層の働き方 労働時間と介護時間の動向を中心に」、『日本労働研究雑誌』No.653、12月号、労働政策研究・研修機構、2014年、59-74頁、<http://www.jil.go.jp/institute/zassi/backnumber/2014/12/pdf/059-074.pdf>

黒田祥子・山本勲、「希望労働時間の国際比較：仮想質問による労働供給弾性値の計測」、『日本経済研究』70号、日本経済研究センター、2014年（山本勲氏との共著）

http://www.jcer.or.jp/academic_journal/jer/detail4738.html#4

黒田祥子、「余暇」、『日本労働研究雑誌』No.633、4月号、労働政策研究・研修機構、2013年、6-9頁、<http://www.jil.go.jp/institute/zassi/backnumber/2013/04/pdf/006-009.pdf>

Kuroda, Sachiko and Isamu Yamamoto, “Why Do People Overwork at the Risk of Impairing Mental Health?,” RIETI Discussion Paper, No.16-E-037, Research Institute of Economy, Trade & Industry, 2016,

<http://www.rieti.go.jp/jp/publications/dp/16e037.pdf>

Kuroda, Sachiko and Isamu Yamamoto, “Does Mental Health Matter for Firm Performance? Evidence from longitudinal Japanese firm data,” RIETI Discussion Paper, No.16-E-016, Research Institute of Economy, Trade & Industry, 2016, <http://www.rieti.go.jp/jp/publications/dp/16e016.pdf>

Kuroda, Sachiko and Isamu Yamamoto, “Workers' Mental Health, Long Work Hours, and Workplace Management: Evidence from workers' longitudinal data in Japan,” RIETI Discussion Paper, No.16-E-017, Research Institute of Economy, Trade & Industry, 2016,

<http://www.rieti.go.jp/jp/publications/dp/16e017.pdf>

〔学会発表〕(計 5件)

Kuroda, Sachiko, “Workers' Mental Health, long work hours and Firm Performance: Evidence from workers=firms matched panel data in Japan,” International Association of Time-use Research, Turkey, August, 2015.

Kuroda, Sachiko, “Workers' Mental Health,

Long Work Hours, and Workplace Management: Evidence from workers' longitudinal data in Japan,” Western Economic Association International, Singapore, January, 2016.

Kuroda, Sachiko, “Workers' Mental Health and Firm Performance: Evidence from firms' longitudinal data in Japan,” Western Economic Association International, New Zealand, January, 2015.

Kuroda, Sachiko, “Workers' Mental Health, Long Work Hours, and Workplace Management: Evidence from workers' longitudinal data in Japan,” International Panel Data Conference, Tokyo, July, 2014.

Kuroda, Sachiko, “Wage Premiums for Firms' Work-Life Balance Practice: Evidence from Japanese matched firm-worker data,” International Academic Conference, France, August 2013.

〔図書〕(計 1件)

山本勲・黒田祥子、『労働時間の経済分析 超高齢社会の働き方を展望する』、日本経済新聞出版社、2014年、全359頁（第57回日経・経済図書文化賞受賞、第38回労働関係図書優秀賞受賞）

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

黒田研究室 HP:

<http://www.f.waseda.jp/s-kuroda/ja/index.html>

Sachiko KURODA's website:

<http://www.f.waseda.jp/s-kuroda/index.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

黒田祥子 (KURODA, Sachiko)
早稲田大学教育・総合科学学術院教授
研究者番号：50447588

(2)研究分担者
()

研究者番号：

(3)連携研究者
()

研究者番号：